

安行小の環境学習・活動の紹介

田んぼ ―日本型ビオトープ―

菊次 哲也



安行小学校では五年生が総合的な学習の時間に「米作り」を学習しています。米づくりには水が欠かせません。安行には赤堀用水が流れています。農業用水です。赤堀利根川から水が引かれています。

赤堀用水が出来たことで、安行でも米作りがさかんになりました。しかし、今では宅地化が進み、田んぼは姿を消し、赤堀用水も農業用水として使われることはほとんどなくなりました。

田んぼには様々な生き物がつながって生きてきました。田んぼは「日本型ビオトープ」とも言われるほど、生態系が豊かです。

五年生は、一昨年度までは米づくりを「バケツイネ作り」として、バケツを使って育てていました。バケツ稲はすぐに水が乾いてしまうので水あげが大変です。夏休みは家に持ち帰り、夏休み明けに、また学校に持ってくるのも一苦労でした。そこで昨年度から安行小学校では田んぼで「米作り」に挑戦しています。

学年園の畑の一行だけ、土を掘り起こし、防水シートを敷いて土と水を入れて田んぼにしています。水は水道から点滴のように少しずつ足していくことで維持、管理しています。

田んぼは五年生の「米作り」だけで使っているわけではありません。プール清掃前に実施している二年生のヤゴ救出大作戦で助けたヤゴは田んぼに放しています。五月の後半には毎日のように田んぼからトンボが羽化しています。県の準絶滅危惧種に指定されているアカガエルのオタマジャクシも田んぼで育てています。アカガエルはカエルになると田んぼを出て、近くの林や森の中でくらしします。そして春二月には田んぼに産卵します。五年生が理科で学習するメダカも通年、田んぼで育てています。六年生はホタル飼育のエサとなるタニシを田んぼから採ってホタルを飼育しています。まさに、田んぼは安行小学校で「日本型ビオトープ」となっています。

春にはアカガエルの産卵、初夏にはトンボの羽化、そして田んぼでのホタル鑑賞会が実現する日も近いことでしょう。真夏には田んぼの稲には小さな白い花が咲きます。ぜひこの夏、学年園に咲く稲の白い花を見てみませんか。